

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月7日現在

機関番号：13103  
 研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2010～2012  
 課題番号：22530958  
 研究課題名（和文） 言語活動を取り入れた活用型音楽学習の開発と評価－創作表現の日米授業比較をもとに－  
 研究課題名（英文） Development and Evaluation of Music Study Utilizing Language Activities: Based on Comparison of Creative Expression Classes in the U.S. and Japan  
 研究代表者  
 時得 紀子（TOKIE NORIKO）  
 上越教育大学・大学院学校教育研究科・教授  
 研究者番号：30242465

研究成果の概要（和文）：日米小・中学校の研究先進校から抽出した優れた授業実践に、独自に設けた評価観点などを尺度として質的な分析を加えた。その結果、音楽と言語と身体各活動がバランスよくかかわり合うことで、表現活動が活発化する傾向が見られた。また、音楽と言語が相互に作用することで双方の活動の質が高まることから、この往来の活性化をはかる手立てとして、言語が関わる演劇的表現や音楽と関わる身体表現活動などを関連させた活用型の学習が有効であることがわかった。

研究成果の概要（英文）：Methods developed at the most advanced Japanese and American elementary and junior high schools were analyzed by studying performance evaluations of children's activities. As a result of this, it is possible to observe a trend in which music, language and physical education are used in a well-balanced way, which boosts creative expression. In addition, it is clear that when music and language are used together, they have a beneficial mutual effect, and the quality of both kinds of activities increases. Performance activities involving language and physical activities involving music are an effective method of activating this relationship.

### 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	1,000,000	300,000	1,300,000
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学、教科教育学

キーワード：活用型音楽学習、言語活動、創作表現

#### 1. 研究開始当初の背景

(1) 国際レベルの学力調査等からも、我が国の子どもたちが知識・技能を活用し、創造していく力を培うことが課題とされ久しい。

学校音楽において、既成楽曲の演奏のみならず、子どもが主体的・能動的にかかわり、協働で創作表現に取り組む学習は、言語の力

を育むことや、子どもの創造性、課題解決力など汎用的な力を培うことに資するのではないか。この仮説をこれまでの研究成果を踏まえて研究当初に設定した。

(2) 仮説を導く礎となったのは前研究となる「2007-2009年度科学研究費補助金基盤研究

C (研究代表者：時得紀子、課題番号：19530794)」における成果と課題であり、本研究をその発展的な研究と位置付けた。

## 2. 研究の目的

(1) 折しも中教審によって全教科・領域に「言語活動の充実」が掲げられたことを受け、音楽科における有効な実践のあり方をめぐり、さまざまな模索がなされていた。こうした背景を受け、言語活動を取り入れた、活用型音楽学習の開発とその評価を本研究の目的の一つに掲げた。

(2) 1. 「研究当初の背景」にも述べた、汎用的な力を培う上で、創作表現を取り入れた、活用型音楽学習が有効ではないかという、先行研究からの仮説を得た。この仮説に基づき、我が国の小・中学校音楽科に創作表現を取り入れ、今日的課題である創造性、問題解決力等を育むための活用型音楽学習のプログラム開発を掲げた。

前回の科学研究の成果と課題を踏まえて、創作表現の日米授業比較を基にしながら、我が国の小・中学校音楽科に応用していくための授業実践の開発と評価に3年間のスパンで取り組むことをめざした。

## 3. 研究の方法

(1) 日米両国の音楽科の授業実践から優れたモデルを抽出し、芸術の4領域(音楽、美術(図工)、舞踊、演劇)とのかかわりに着目したカリキュラムタイプの分類を試みた。

分類に際しては、両国の授業観察と子どもたちの活動へのパフォーマンス評価・意識調査を踏まえた。

その結果、特に米国で展開されている、「音楽と舞踊」、「音楽と演劇」、「音楽と舞踊と演劇」という、芸術の領域を複合的にまたがる3つのタイプに大別した。

(2) これらのカリキュラムの分類後、各々に分類された授業に対して、日米両国の研究構成員らによる質的な記述等を加えながら、検証を重ねた。

分類したカリキュラムの補足説明。

- 1) 言語活動を複数教科の関連のもとに取り組む学習方法として、既に米国で成果をあげている、ホール・ランゲージの発想を導入した事例を含む、「音楽と演劇」のかかわる音楽学習。
- 2) 米国学校音楽に広く導入されている、リトミックなどの身体表現活動を取り入れた「音楽と舞踊」のかかわる音楽学習。
- 3) これら3領域が複合的にかかわる音楽学習。すなわち「音楽と舞踊と演劇」の各芸術領域を複合的にまたがる音楽学習。

## 4. 研究成果

(1) 両国での授業観察と子どもたちへのパフォーマンス評価・意識調査を経て、日米ともに、「音楽と舞踊」、「音楽と演劇」あるいは「音楽と舞踊と演劇」といった、芸術の領域を複合的にまたがる授業では、子どもたちの協働の創作表現がより活性化し、豊かな言語活動が広がる傾向が見られた。

同時に、パフォーマンス評価・意識調査を通じた分析から、児童・生徒の身体表現や言語を取り入れた活動からは、意欲の高まりや、言語活動を通じた活動がより活発化する場面が見られた。そのため、これらの有効な取り組みを後述するプログラムの作成に生かした。

(2) 両国の優れた授業モデルを基に子どもの言語の力、創造性、課題解決力など汎用的な力を培うことをめざした、活用型音楽学習のプログラムの作成を試みた。

今後ともプログラムの改訂・改善を加えていく予定であり、汎用的技能としてのコミュニケーションスキル、論理的思考力、問題解決力等を培うことに資する学習プログラムを継続して開発していく上でも、本研究では、その礎となるプログラムを構築することができた。

(3) 3年間の研究成果としては、2011年7月開催の国際音楽教育学会 ISME (International Society for Music Education) アジア・環太平洋地域大会台湾大会誌への同時に2つの投稿論文がフル・ペーパー掲載、並びに2012年開催のギリシャ世界大会誌でもフル・ペーパー掲載に採択された。同時にこれらの大会での口頭発表にも採択され、各国研究者との研究交流・情報交換に努めた。

さらに、本研究成果を踏まえた投稿論文が2012年中国北京で開催された日中教師教育研究会国際大会、並びに韓国釜山大会、2年後のソウル大会での2回の国際幼児教育学会において、いずれも招待発表の機会を得た。

以上のように国際レベルでは、3年間に計8つもの国際学会において成果発信し、国際的にも貢献できたことは意義がある。

(4) 国内では2010年、2011年、2012年の日本音楽教育学会 埼玉大会、奈良大会、東京大会での継続した学会発表を行った。

この他、鳴門教育大学から出版された日中教師教育国際学会誌(英文フル・ペーパー)、上越教育大学研究紀要、同学校教育センター紀要等で3年間連続して、投稿論文が掲載された。

音楽教育以外の学会では、日本カリキュラ

ム学会で、委嘱パネリストとして招待発表の機会を得た。「総合表現型カリキュラム開発と実践—創造力と課題解決力を培う創作活動を中心に—」、第23回大会(2012年 中部大学)において、本継続研究の成果をあまねく発信した。

(5) 総括

本研究は、同じく筆者が研究代表者を務めた前科研となる、2007—2009年度の継続的な研究として、小・中学校を通じた9年間を見据えた視点から、2007—2012年までの通算6か年間の継続研究となった。

長期間に亘って、国内外にあまねく成果発信を継続したことにより、音楽教育の分野のみならず、幅広い関連学問分野に資する貢献がかなったことから、本研究は評価できるものと受け止めている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計21件)

- ① Tokie, Noriko, “Effectiveness of Collaborative Learning in the Japanese Classroom: Integrated Study of Music with Other Arts” ISME Asia-Pacific Regional Conference 2013 Singapore: Full Paper Proceedings of the 8th APSMER (Asia-Pacific Symposium on Music Education Research) 査読有、(印刷中) 2013
- ② Tokie, Noriko, Russell-Bowie, D., Marjanen, K., “The Effectiveness of Integrating Music and Other Subjects on Students’ Development: The Music Education Situation in Australia and Finland and its Implications for Japan” 上越教育大学研究紀要 第32巻、査読有、2013、409—418.
- ③ 時得紀子, 村川雅弘, 福田里美, 「音楽科における〔共通事項〕活用についての一考察—小学校現職教員への意識調査を通して—」上越教育大学研究紀要 第31巻、査読有、2012、363—372.
- ④ 時得紀子, 村川雅弘, 田中博之, 「言語活動を取り入れた活用型音楽学習についての一考察—初等教育における実践事例をもとに—」上越教育大学学校教育センター 実践研究第22集、査読有、2012、21—28.
- ⑤ Tokie, Noriko, “Effectiveness of Integrated Study in Teacher Training: A Communicative Group Activity Involving Music, Culture and Physical Expression” ISME (International Society for Music Education) 2012 World Conference: Thessaloniki, Greece: Full Paper Proceedings of the 30th World Conference, 査読有、2012, 353-359.
- ⑥ 時得紀子, 「初等教員養成における音楽指導についての一考察—創造力と課題解決力を培う音楽づくりを中心に—」第5回 日中教師教育学術研究集会 北京大会誌 北京師範大学、査読有、2012、268-278.
- ⑦ Tokie, Noriko, “Implementing Effective Early Childhood Education in Japan with Reference to the U.S. Case” KSECE (The Korean Society for Early Childhood Education): Seoul, Korea: Proceedings of The 7th International Conference, 査読有、2012, 121—125.
- ⑧ 時得紀子, 小林田鶴子, 内海昭彦, 「表現力を高める「音楽づくり」についての一考察」名古屋女子大学紀要 第57号、査読有、2011、139—149.
- ⑨ 時得紀子, 小林田鶴子, 内海昭彦, 「思考力・判断力・表現力を高める活用型音楽学習の実践」上越教育大学学校教育センター 実践研究第21集、2011、19—28.
- ⑩ 時得紀子, 遠藤好子, 小町谷聖, 「創作表現活動で培われる力を視座とした実践的研究—舞台制作過程と生徒への意識調査を基に—」日本教育大学協会研究年報第29集 日本教育大学協会 年報編集委員会編、査読有、2011、41—54.
- ⑪ 時得紀子, 「初等教員養成におけるリトミック指導の一考察—創造力と課題解決力を培う音楽づくりを中心に—」(原著論文) ダルクローズ音楽教育研究 通巻第35号 日本ダルクローズ音楽教育学会編、査読有、2011、33—43.
- ⑫ Tokie, Noriko, “Practical Teaching Skills and Teacher Education in School Music: With Reference to the U.S. Case”: The Proceedings of the Fourth Japan-China Teacher Education Conference: Naruto University of Education, 査読有、2011, 257—263.
- ⑬ Tokie, Noriko, “A Practical Study of the Arts Curriculum in Japanese Teacher Education: Cultivating Undergraduate and Postgraduate Students’ Creativity Through Use of the U.S. Model” ISME Asia-Pacific Regional Conference 2011: Taipei, Taiwan: Full Paper Proceedings of the 8th APSMER (Asia-Pacific Symposium on Music Education Research) Chapter 20, 査読有、2011, 1-12.
- ⑭ Tokie, Noriko, “Integrating Music Activities With Other Subjects: A Way to Make Japanese School Music More

- Inclusive” ISME Asia-Pacific Regional Conference 2011: Taipei, Taiwan: Full Paper Proceedings of the 8th APSMER (Asia-Pacific Symposium on Music Education Research) Chapter 25, 査読有, 2011, 1-10.
- ⑮ 齊藤孝夫, 時得紀子, 「協働型の表現活動の実践をめぐる考察 —保育士・教員養成課程の学生への意識調査をもとに培われる力に着目して—」新潟中央短期大学 暁星論叢 第60号、査読有、2011、23-39.
- ⑯ Tokie, Noriko, “Using Cross-Curricular Classes to Help Meet the Mandated Goals of Japanese Music Classes”, Full paper proceedings of the 29th ISME World Conference, Beijing China. (査読有) Vol. 29, 2010, 297 - 303.
- ⑰ 時得紀子, 小林田鶴子, 内海昭彦, 「創って表現する活動」から「音楽づくり」へ —星野圭朗の実践をめぐる—」上越教育大学研究紀要第29巻、査読有、2010、309-319.
- ⑱ 時得紀子, 信谷準, 「身体表現活動を取り入れた拍感の体得をめざす試み—小学校低学年の音楽科授業を通して—」上越教育大学学校教育センター実践研究第20集 2010、27-36.
- ⑲ 時得紀子, 「総合表現型カリキュラムの実践への一考察」兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科 教育実践学論集 第11号、査読有、2010、155-166.
- ⑳ Tokie, Noriko, “A Study of Expressional Education from the Viewpoint in Close Coordination between Kindergarten and Elementary School: Through the Cases of the Current Situations of both Japan and U. S. A. ” KSECE (The Korean Society for Early Childhood Education): Busan, Korea: Full Paper Proceedings of the 6th International Conference, 査読有, 2010, 177-180.
- ㉑ 時得紀子, 小林田鶴子, 内海昭彦, 「ICTを活用した音楽学習の一考察 —初等教育段階への実践を通して—」上越教育大学研究紀要 第30巻、査読有、2010、256-274.
- [学会発表] (計12件)
- ① 時得紀子, 遠藤好子, 「総合表現活動によって培われる多様な力 —「協働」と「省察」に着目して—」日本音楽教育学会(第43回) 東京大会、2012年10月 東京音楽大学
- ② Noriko Tokie, “Implementing Effective Early Childhood Education in Japan with Reference to the U. S. Case”, KSECE, (The Korean Society for Early Childhood Education): Seoul, Korea: Proceedings of The 7th International Conference, Seoul, Korea, Sep, 2012. (招待発表)
- ③ 時得紀子, 「初等教員養成における音楽指導についての一考察 —創造力と課題解決力を培う音楽づくりを中心に—」, 第5回 日中教師教育学術研究集会 北京大会誌 2012年9月 北京師範大学
- ④ Noriko Tokie, “Effectiveness of Integrated Study in Teacher Training: A Communicative Group Activity Involving Music, Culture and Physical Expression”, ISME(International Society for Music Education) World Conference: Thessaloniki, Greece, July 2012. (招待発表)
- ⑤ 時得紀子, 総合表現型カリキュラム開発と実践—創造力と課題解決力を培う創作活動を中心に—」日本カリキュラム学会 第23回大会 2012年7月 中部大学 (委嘱パネリスト 招待発表)
- ⑥ 時得紀子, 遠藤好子, 中等教育における総合表現活動の成果と課題—ミュージカル制作15年の取り組みから—」日本音楽教育学会 第42回大会 2011年10月 奈良教育大学
- ⑦ Tokie, Noriko, “A Practical Study of the Arts Curriculum in Japanese Teacher Education :Cultivating Undergraduate and Postgraduate Students’ Creativity Through Use of the U. S. Model” The 8th Asia-Pacific Symposium on Music Education Research, ISME Regional Conference 2011” ISME—International Society for Music Education —, APSMER 2011 July 6, 2011, Taipei, Taiwan (招待発表)
- ⑧ Tokie, Noriko, “Integrating Music Activities With Other Subjects: A Way to Make Japanese School Music More Inclusive” The 8th Asia-Pacific Symposium on Music Education Research, ISME Regional Conference 2011” ISME—International Society for Music Education—, APSMER 2011 July 5, 2011, Taipei, Taiwan (招待発表)
- ⑨ 時得紀子, “Practical Teaching Skills and Teacher Education in School Music: With Reference to the U. S. Case” 日中教師教育学術研究集会 第4回国際大会 2010年12月 鳴門教育大学
- ⑩ Tokie, Noriko, “Study of Expressional Education from the Viewpoint in Close

Coordination between Kindergarten  
And Elementary School: Through the  
Cases of the Current Situations of both  
Japan and U. S. A. ” The 6th International  
Conference of the Korean Society for  
Early Childhood

Education (KSECE) October 16, 2010  
Busan, Korea (招待発表)

- ⑪ 時得紀子, 「米国教員養成における芸術教育カリキュラムの一考察 —コロンビア大学ティチャーズカレッジを視座として—」 日本音楽教育学会 第41回大会  
2010年9月 埼玉大学
- ⑫ Tokie, Noriko, “Using cross-curricular classes to help meet the mandated goals of Japanese music classes.” The 29th ISME (International Society for Music Education) World Conference, August 3, 2010  
Beijing, China (招待発表)

[図書] (計3件)

- ① 時得紀子, 他, 音楽之友社、最新『中等科音楽教育法』(改訂版) 中学校・高等学校教員養成課程用、2012、231、132-133
- ② 時得紀子, 他, 音楽之友社、最新『中等科音楽教育法』中学校・高等学校教員養成課程用「ミュージカルに取り組む活動事例から」2010、231、132-133
- ③ 時得紀子, 他, 上越教育大学音楽、「上越教育大学学生のための音楽」(第5版) 2010、53、51-53

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

時得 紀子 (TOKIE NORIKO)  
上越教育大学・大学院学校教育研究科・教授  
研究者番号: 30242465

### (2) 研究分担者

田中 博之 (TANAKA HIROYUKI)  
早稲田大学・教育総合科学学術院・教授  
研究者番号: 20207137  
村川 雅弘 (MURAKAWA MASAHIRO)  
鳴門教育大学・学校教育研究科・教授  
研究者番号: 50167681

### (3) 連携研究者

無藤 隆 (MUTOU TAKASHI)  
白梅学園大学・子ども学部・教授  
研究者番号: 40111562